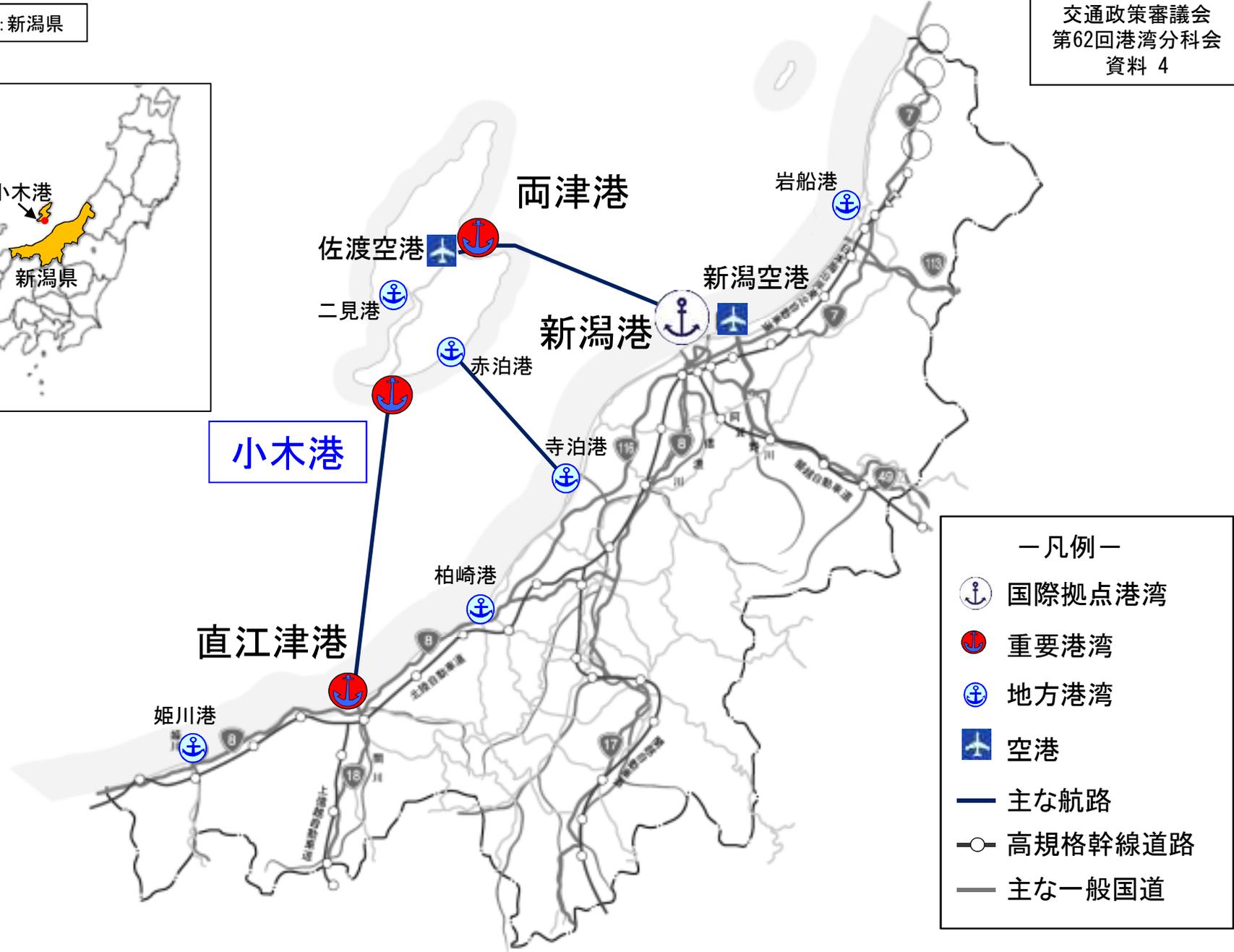


小木港 港湾計画一部変更

前回改訂：平成9年7月（目標年次：平成20年代前半）

平成28年2月29日
交通政策審議会
第62回港湾分科会
資料 4

港湾管理者：新潟県



小木港

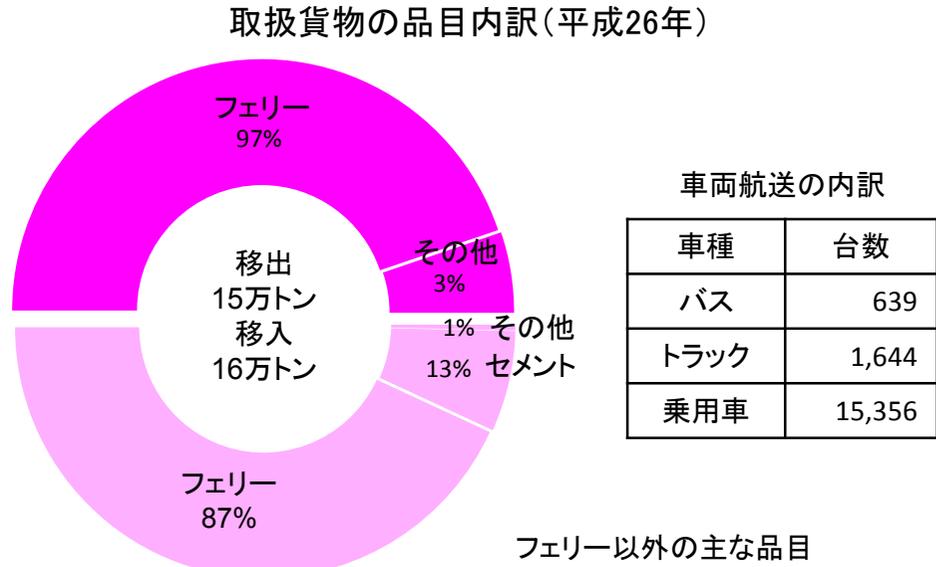
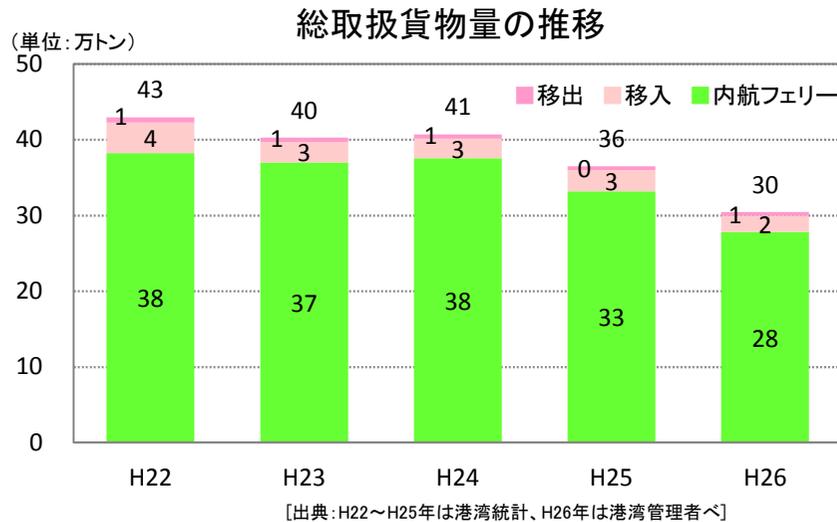
- 凡例 —
- 国際拠点港湾 (International Hub Port)
 - 重要港湾 (Important Port)
 - 地方港湾 (Local Port)
 - 空港 (Airport)
 - 主な航路 (Main Route)
 - 高規格幹線道路 (High-standard Trunk Road)
 - 主な一般国道 (Main General National Road)

小木港 計画変更箇所



小木港の概要

○小木港は、直江津港との間にカーフェリーが就航し、佐渡島南西部における人流・物流の拠点として利用されている。
 ○取扱貨物量の約9割をフェリー貨物が占める。

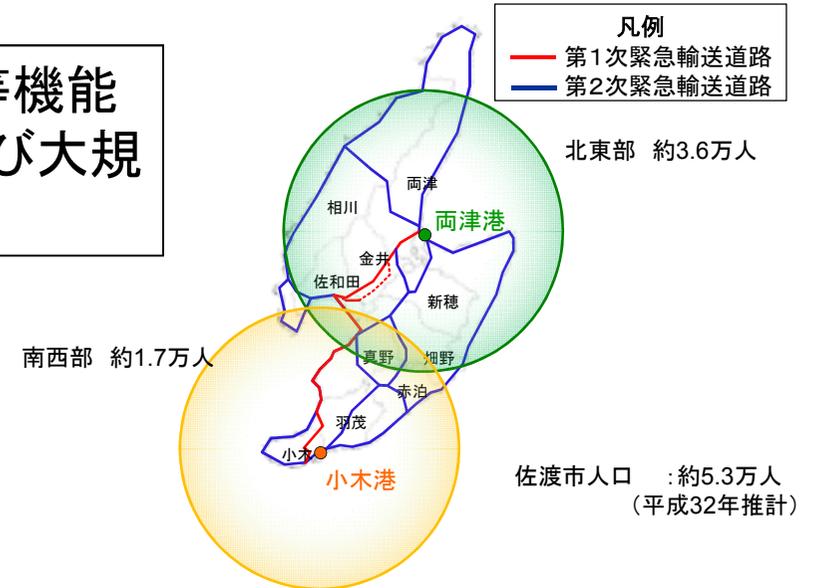


小木港(～直江津港)の輸送実績等

船舶	高速カーフェリー
乗降客数	13万人/年
フェリー貨物	移出 14万トン 移入 13万トン
便数	2～3便/日
航行距離	78km
時間	1時間40分

今回計画(一部変更)のポイント

○大規模地震発生時における緊急物資輸送等機能を早期に確保するため、フェリー埠頭計画及び大規模地震対策施設計画を変更する。



大規模地震対策施設(耐震強化岸壁)が未整備

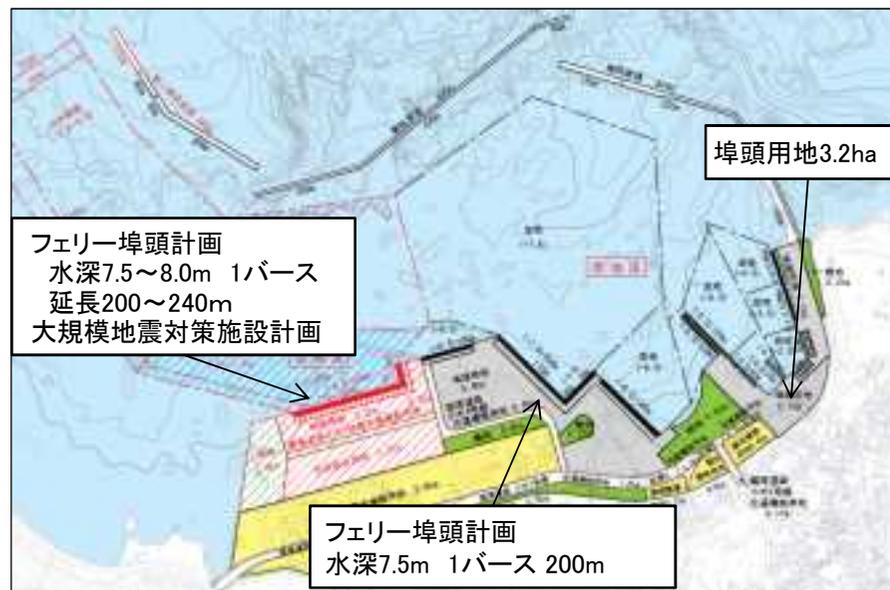


緊急性や既存ストックの有効活用等を考慮し、大規模地震対策施設の配置を既存岸壁に変更

計画変更の内容(北地区・南地区)

- 大規模地震発生時の緊急物資輸送及び緊急避難の機能を確保するため、大規模地震対策施設の配置を変更する。
- 利用実態の変化に対応するため、小型船だまり計画としての防波堤(波除)、並びに緑地及び臨港道路を計画する。

【既定計画】



【今回計画】



確認の視点

確認事項	「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」との適合
大規模地震対策施設計画の見直し	<p>Ⅱ 港湾機能の拠点的な配置と能力の強化</p> <p>7 大規模地震対策施設</p> <p>大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資、避難者等を輸送するための機能を確保するべく、東海地震、東南海・南海地震等の大規模地震災害の切迫性、地理的条件、港湾の利用状況、緊急輸送道路網等背後地へのアクセスの状況等を考慮して、大規模地震対策施設を適切に配置する。また、大規模地震対策施設は、耐震強化岸壁と、緊急物資の保管や被災者の避難等に資する広場、市街地と港湾を連絡する道路等を一体的に備える。</p>